

飛翔

発行責任者
平塚MAC
池田 忠宏



歩く会 横浜みなとみらいで 鉄道模型から宇宙・空・海を巡る

折り畳み傘を持参したが、予報に反し明るい陽射し。横浜駅より徒歩5分、三井不動産が運営する「原鉄道模型博物館」です。

コクヨ(株)の元専務であった原信太郎(のぶたろう)・東京工業大学卒)が生涯を賭けた鉄道模型の製作とコレク



ション。自主製作したもの建つがごとくでした。

は、全てが実物の具現性を追求。パンタグラフには架線から電気を引き、車輪や見えない部分まで全てが鉄製であるとか。特徴は其れだけではなく所蔵の多さと、そのパノラマの大きさは開業当時世界一でした。

海外で鉄道模型の文化は高く、原信太郎はこの道では世界の著名人でした。また米国の大学の名誉理事長にも就任しています。次は横浜駅の東口に戻りシーバスに乗ります。出港すると爽やかな風が頬をよぎります。今日は「みなとみらい」を海上から眺めます。赤レンガ倉庫や街の風景だけでなく、寄港中の大型客船などが目の当たり。まさに海上にマンションが

建つがごとくでした。終点山下公園では、咲き誇る薔薇に紫陽花が主役を取って代わろうとしていました。この風景を横に見て中華街に向かい、適当に店を選び、円卓を9名が囲み昼食。和やかな食事の中で、話も弾みました。食後の散策。何度か歩いた街なのに、関帝廟と間違え、女性に人気の媽祖廟(まそびょう)へと迷い込みました。道理で周りは女性ばかり。また上野の花見で出会った様な美人はいないかと、一同周りをキョロキョロ。宇宙開発ロケット・国産ジェット機・潜水艇に見るみなとみらいやがてみなとみらい線に乗り「三菱みなとみらい

技術館」へ。最初に交代で宇宙服で記念撮影をし、国産ジェット旅客機MRJの実物模型に関心を寄せました。綺麗な流線型の機体。まさに機内は新幹線の様な感じ。また、宇宙開発H-2A型のロケットエンジンを手で触り、構造や大きさを確かめました。

この中で様々な探索作業を行うのですが、驚くべきは耐圧能力です。壁厚5センチもある、鋼鉄の球面物体が破裂する深海。しかしそこに棲息する魚もいるから考えさせられます。平塚には16時に帰着。6月3日、平塚MACの9名の、薄暑の小さな旅でした。

潜水艇「深海6500」の操縦室は畳2畳大です。歩く会 今込 祐弘 記

七夕飾りボランテニア

十一日間で延べ六十二名が参加

MACCの伝統を引き継ぐ

令和最初の湘南ひらつか七夕まつりが、7月5日から7日まで開催されました。今年もまた平塚MACの有志が「七夕飾りボランテニア」に参加しました。5月19日から6月23日までの11日間に12名の会員が延べ62名(七夕の会役員の原園信夫さんを除く)でした。

諸先輩から引き継いでいる「七夕飾りボランテニア」

ですが、正しく年に1回のことであり、ほぼ同じ作業の繰り返しのはずですが、何故か結構忘れてしまっています(超ベテランの方は別ですが)。でも後半の作業に入ると自分たちのカットした吹き流しを枠に合わせて貼り付けます。「急がないでよいので、丁寧に真つ直ぐ」が、MACの会員はややスピード重視の方が多く、切れ目が必ずしも真つ直ぐでない

当面のスケジュール
8月1日(木)、8月21日(水) MACうた仲間
8月2日、9日、16日、23日(金) 囲碁を楽しむ会
8月5日(月) パークゴルフの会
※8月のパソコン勉強会はお休みとなります。

ものが入っています。ここでカットの出来具合の評価を、自分たちですることになります。綺麗にすんなり貼り付けられない状況が発生してしまいます。そんな反省をしながらも、今年も無事終了です。来年もみんなで健康で、元気に参加したいと思いつつ、第69回湘南ひらつか七夕まつりが、大いに盛り上がることを願って帰路についた最終日でした。

七夕飾りボランテニア 杉山 孝司 記

次号の発行は 8月15日(木)です